

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第十七話

「七夕まつりとローソクもらい」(要約文)

北海道での七夕まつりは、函館周辺は7月7日、他の地域で8月7日に行われることが多いです。北海道ではこのときに「ローソクもらい」の行事が行われます。いつ頃、どのようにして行われるようになったかは定かではありませんが、お盆と関係があるといわれています。

新冠町字東町の場合、昭和30年代には七夕まつりがあり、子ども会としては昭和45年頃から取り組んでいます。家の玄関前にはヤナギやササを飾り、子どもたちが提灯を持ってローソクもらいに歩きます。はやし唄は「ローソク出せ、出せよ、出さない」とひっかくぞ、おまけにかっちゃんくぞ、字本町では、昭和の初め頃に提灯を持ち歩くローソクもらいが行われており、「ローソク出せ、出せよ、出さないとかっちゃんくぞ」と唄っていたようです。

ローソクもらいのはやし唄は、地域によって違いがあります。北海道では明治時代になって七夕まつりとローソクもらいが盛んになりましたが、本州ではローソクもらいについてほとんど行われていないようです。はやし唄の中の「かっちゃんく」という言葉は、東北地方で広く使われており、新潟県では「ローソク出せ、出せよ、出さ

ねばかっちゃんくぞ」、秋田県では「七夕さまのおくねりだ。ローソク一本ちようだいな」というのはやし唄が残っています。

子どもたちが提灯を持って、夜に集団で地域をまわって歩くことは、両親に許された唯一の機会であり、それだけに連帯感や地域との結びつきにおいて大切であったと思われまます。しかし、子どもの減少や社会変化によって、しだいにローソクを集める意味も薄れ、唄は残されていますが、最近ではローソクをもらうかわりに、菓子や小銭をあげる所も多くなってきました。

日本の年中行事である正月、節分、節句、月見などよりも、バレンタインデー、ホワイトデー、クリスマスなどの外来行事の方が盛んになっているのは寂しい限りです。せめて、七夕の夜だけは夜空に広がる天の川をはさんで光っている牽牛星(星座ではわし座のアルタイル)と織女星(星座でははくちよう座のデネブ)をさがしてほしいと願っています。



新冠町では近年、青年団体連絡会議が中心となり、七夕時期に「ローソク出せ」事業を行っています。上の写真は今年8月2日に行われた時の様子です。

～夕暮れ時の交通事故防止～

- ドライバーは早めのライト点灯を
- 歩行者は夜光反射材の着用、明るい服装を
- 道路の横断は信号機・横断歩道を利用しましょう

静内警察署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
9月	1件 (1件)	40件 (32件)
元年1～9月	4件 (1件)	256件 (230件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
9月	2件 (0件)	0人 (0人)	3人 (0人)
元年1～9月	6件 (4件)	0人 (0人)	7人 (5人)

人のうごき

(令和元年9月末現在)

人口 5,512人 (前月比 - 8人)
 男 2,704人 (前月比 - 7人)
 女 2,808人 (前月比 - 1人)
 世帯 2,778世帯 (前月比 - 2世帯)